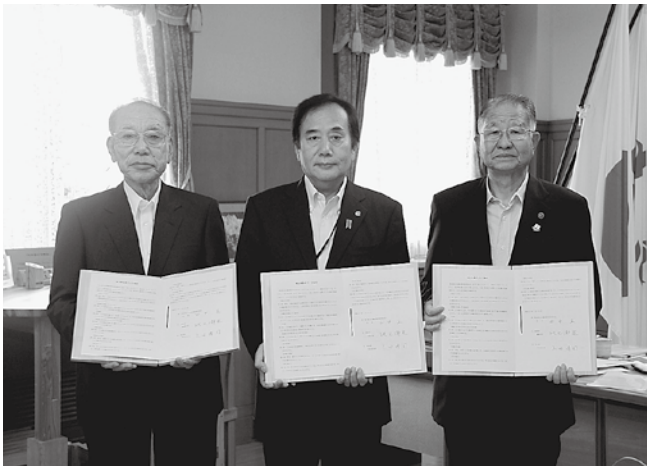
川越農林振興センターだより

埼玉県のマスコット　コバトン

第19号　平成25年3月発行
発行　川越農林振興センター
電話　049-242-1808（代表）
e-mail　r421810@pref.saitama.lg.jp
ホームページ　http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k11/

彩の国
埼玉県

県立川越高等学校同窓会　「川高初雁の森」づくりを開始


左から　川越高校同窓会田中会長、上田知事、沢辺飯能市長

県立川越高等学校同窓会が、森林所有者である飯能市や県と協力し、社会貢献活動「川高初雁の森」づくりを始めました。

県では、県民の共有財産である森林を守り育てるため、企業・団体による森づくり活動を支援していますが、高等学校同窓会による森づくりは、今回で５校となりました。

川高同窓会では、これまで様々な地域活動を行っておりますが、川越市内を流れる入間川上流で森づくりを行う場所を探していたところ、飯能市から有間ダム脇の市有林約2.5haを提供いただき実現しました。

平成24年７月23日（月）、県庁で、同窓会・飯能市・県の３者による「埼玉県森林（もり）づくり協定」を締結。

協定者	川越高等学校同窓会、飯能市、埼玉県
場　所	飯能市大字下名栗地区ほか
林　況	広葉樹
期　間	平成24～28年（5年間）

植　樹　祭

その後、同窓会で「川高初雁の森事業部」を立ち上げ、森づくりの方針や植樹祭の企画等について検討を重ねました。

植樹祭は、平成24年10月21日（日）、田中同窓会長をはじめ、上田知事、沢辺飯能市長など総勢120人が参加し行われました。

当日は、雲ひとつない秋空の下、数十年先に立派な水源林に育っていく様子を語り合いながら、ヤマザクラやイタヤカエデなど約350本を植栽しました。

同窓会では25年度に向けた植栽地の下刈りや植樹活動について活発な意見が交わされています。

期待される新規作物！ 狭山市で「葉しょうが」の作付拡大

ＪＡいるま野狭山共販センター管内の生産者13名が取り組んでいる「葉しょうが」が注目されています。

「葉しょうが」の栽培期間は、５月上旬から７月上旬と短く、比較的軽労力のわりに、高収益が期待できます。

生産者は、栽培経験が少ないため、品種や作型の選定、防除方法などの栽培技術の向上に努めました。

栽培風景

この結果、品質・収量も良く、市場からも高い評価を得ることができました。また、狭山市の農産物品評会では入賞を果たしました。

手応えをつかんだ生産者は、25年の本格的栽培に向け、種しょうがの貯蔵方法を検討し、２～３倍の面積拡大を目指しています。

講習会などで栽培技術・出荷方法等を確認し、更なる品質向上と安定生産により狭山市の新品目としての定着を図ります。

農産物品評会で入賞

いるま地域明日の農業担い手育成塾への支援

当センターでは平成22年から「いるま地域明日の農業担い手育成塾」（事業実施主体：ＪＡいるま野）の運営支援や塾生に対する農業経営・技術指導を行っています。

１年以上の農業研修経験のある新規農業参入希望者を対象に、１人当たり30ａ程度の研修用農地で２年間の営農実践研修を実施しています。

農産物の販売先については、研修生自らの販路開拓と併せてＪＡいるま野の直売所等で販売できるようにしています。

研修生（左端）へ研修農地を紹介

２年間の研修実績等を考慮して新規就農が可能であるか修了判定を行い、修了後は各市町の農業委員会を通じて農地の賃貸や利用権設定ができるよう支援しています。

現在、20人の研修生が川越市、所沢市、入間市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市の６市で研修を実施しており、平成25年度には６人が新規就農する予定です。

研修生（左）への巡回指導

有望な新品種　水稲「彩のきずな」・小麦「さとのそら」

○水稲新品種「彩のきずな」

「彩のきずな」は「コシヒカリ」「キヌヒカリ」に代わる良質・良食味系統のひとつとして埼玉県農林総合研究センターが育成し、平成24年11月８日付けで種苗法に基づき登録された新品種です。

近年、夏場の高温障害によるコメの品質低下が問題となっていましたが、「彩のきずな」は①高温登熟性が「強」で白末熟粒の発生が少ない、②アミロースが低く、食味は「コシヒカリ」と同等、③イネ縞葉枯病、穂いもちに強い、④田植えから収穫期までが120日の中生品種などの特性があります。

今後、各地域に栽培実証ほを設置して作付拡大を図る予定です。

「彩のきずな」
精米した状況

○小麦新品種「さとのそら」

埼玉県で栽培されている小麦の主要品種は「農林61号」ですが、この品種は、草丈が長く倒れやすいことから、近年の温暖化により収量や品質が不安定になることが課題となっています。そこで、現在有望視されているのが「さとのそら」です。

「さとのそら」は、①草丈が短く、穂数が多くて多収、②「農林61号」より成熟期が１～２日早い、③倒れにくく後期追肥による品質向上が容易、などの特性があります。

また、小麦粉の色が黄白色でうどん加工では美しい仕上がりになります。県では、茨城県、栃木県、群馬県と連携し北関東共通銘柄として平成26年産（25年秋まき）をめどに「農林61号」からの品種転換を目指しています。

福島原発の避難者が新天地で農業経営を開始

福島県双葉郡富岡町出身の中島正弘さん(40歳)が両親と共に所沢市で就農しました。中島さんは富岡町でいちごと水稲を経営していましたが、福島第一原発事故の影響で狭山市の斡旋住宅に家族揃って避難していました。

中島園芸代表中島さん

「近くで農業を始めたい」と決心を固め、所沢市やＪＡいるま野の支援を受け、南永井・中富地区に70ａの農地を斡旋してもらい、平成24年４月に就農しました。

お父さんといちごハウス

現在、ハウス４ａで、いちごを栽培しているほか、さつまいも、ほうれんそう、にんじん等を栽培しています。「もう富岡町には帰えらないので、ここでしっかり農業を始めたい」「安全・安心にこだわった野菜を作っていきたい」と新たな地に根をおろし、再出発を図っています。

川のまるごと再生プロジェクトが始まりました

◆川のまるごと再生プロジェクトとは？

埼玉県では、水辺再生100プランの完了後、平成24年度から新たな川の再生の取組として「川のまるごと再生プロジェクト」がスタートしました。川のまるごと再生プロジェクトは、これまでのスポット的な川の再生をステップアップする形で市町村のまちづくり事業などと連携を図りながら、線的、面的に広げる内容となっています。

◆川のまるごと再生プロジェクトのコンセプト

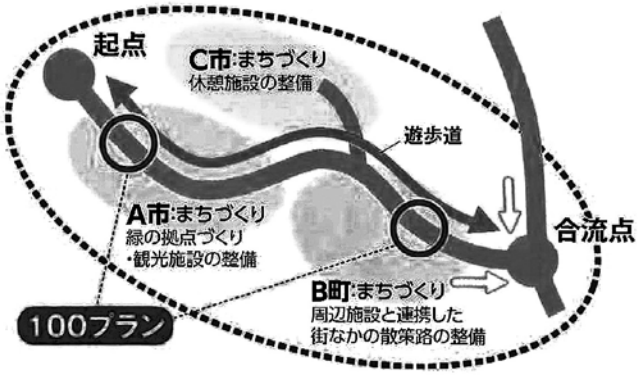
①水辺再生100プランのスポット的な水辺再生から、一つの川を上流から下流まで一体的に再生する。

②市町村のまちづくりと連携して面的な広がりを持たせる。

③川や地域の特性に応じた再生テーマを定めて取り組む。

④県民が取組成果を実感することで共助による川の再生を推進する。

市町村を流れる川をまるごと対象にまちづくりと一体となり、川を再生



イメージ図

このプロジェクトにより、県民、市町村、県がともに取り組みを進めていく「共助による川の再生」へつなげていきます。

◆川越農林振興センター管内での実施地区

川越農林振興センター管内では、入間川地区（川越市、狭山市）と古川排水路ほか地区（川越市）の２箇所について、整備を行っていきます。

【入間川（川越市・狭山市）】

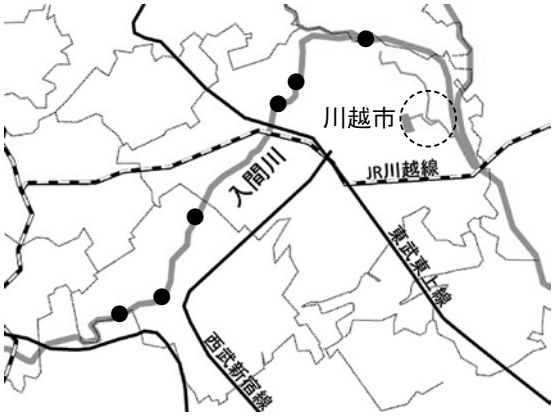
入間川にある農業用取水堰の中でも、特に段差が大きい６つの農業用取水堰(地図中●)に魚道を設置し、魚が遡上できるようにします。

また、周辺にある公園や緑地を入間川の堤防上にある川越狭山自転車道路などを使って結び、入間川沿線地域でのまちづくりを推進します。

【古川排水路ほか（川越市）】

川越運動公園の西側を流れる古川排水路と、伊佐沼から流れる笹原排水路について、水路と遊歩道などの整備を行います。

市の中心部から伊佐沼を経由し、直売所や運動公園などの各施設を結ぶネットワークを作ることにより、訪れる人が増え、交流やふれあいが生まれる水辺空間を創出することを目的としています。



●：入間川地区として魚道を設置する６つの農業用取水堰

◌：古川排水路ほか地区

◆イベントに出展

平成24年10月27日（土）・28日（日）に川越市運動公園で行われた「川越市産業博覧会」に、ブースを出展しました。

ブースでは、川のまるごと再生事業についてのパネルや入間川地区、古川排水路ほか地区それぞれのパネルを展示しました。また、水産研究所の協力のもと、入間川で見られる魚の展示（アユ、メダカなど）を行いました。

坂戸市の酪農家亀田康好さん、埼玉農業大賞を受賞

坂戸市で酪農業を営む、シンボライズファーム代表亀田康好さんが、第３回埼玉農業大賞（地域貢献部門）を受賞しました。

就農して40年余り、妻の光子さんと共に、一貫して高泌乳の酪農経営に取り組む中、幼稚園児や小学生を対象に「搾乳体験による“食”と“いのち”の学び」を実践してきました。また、いちじく栽培に着目し、地域の農業者と「大家いちじく倶楽部」を立ち上げ、新たな栽培技術の確立や高品質なジャム加工・販売に貢献しました。

さらに、耕作放棄地解消に向け、城西大学の学生の活動支援を通じて、酒米生産や野菜等の作付け拡大も手がけています。卒業生は就農を目指し研修を開始しています。

農業はもとより地域の活性化に結びついた幅広い活動が大きく評価され大賞に輝きました。

上田知事と亀田さん御夫婦

むさし４Ｈクラブの農婚プロジェクトが全国農業青年クラブ連絡協議会会長長を受賞

むさし４Ｈクラブ（飯能市、日高市、鶴ヶ島市、坂戸市、毛呂山町の青年農業者２０人で組織）が、平成２５年３月１日に行われた第５２回全国青年農業者会議において、地域活動部門で第３位となり、全国農業青年クラブ連絡協議会会長賞を受賞しました。

妻帯者のいないクラブ員が多くいることから、婚活イベントを自ら企画立案し、イベントを開催、成功した取組を発表しました。

イベントの手作り感やクラブの和気あいあいとした雰囲気が評価され受賞に至りました。

また、プロジェクトに取り組んだことで、クラブ員に女性への積極的な姿勢が生まれ、婚約、結婚へとつながりました。

左から内野さん、堀口会長、井上さん

狭山市４Ｈクラブ「埼玉・教育ふれあい賞」受賞

狭山市４Ｈクラブが「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞しました。狭山のさといもを題材とした地域の高校生への食育活動や民間企業と連携したさといも栽培の農業体験学習が高く評価されました。クラブ員は活動を継続し、野菜の消費拡大に貢献したいと決意を新たにしています。

狭山市４Ｈクラブ天野会長

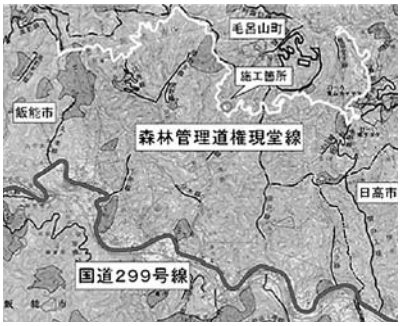
陽子ファームが毎日農業記録賞優秀賞を受賞

所沢市の池田容子さん（陽子ファーム）が、第40回毎日農業記録賞において「私の元気届けます」で一般部門の優秀賞を受賞しました。池田さんがひとりで無農薬有機栽培を始め、周囲の人に支えられながら現在の経営を築いた努力の物語が高く評価されました。受賞を機に一層頑張らなくてはと張り切っています。

景観に配慮した工法による落石防止工事を実施

山崩れなどの山地災害から住民の生命・財産を守り、水源のかん養、生活環境の保全・形成等を図るため、治山事業を行っています。

今年度、飯能市大字虎秀（こしゅう）地内の「天文岩（てんもんいわ）」において、景観に配慮した落石防止工事を行いました。「天文岩」は、森林管理道権現堂線沿いにある大きな岩塊で、江戸時代の天文学者の千葉歳胤（としたね）が裂目の内部で勉学に励んだと伝えられ、地元信仰の対象になっています。



位置図

被災した祠

平成21年度に「天文岩」の一部が崩落し、祠が被災したため調査をしたところ、今後も落石の危険があり、工事が必要となりました。「天文岩」は地元信仰の対象であることから、自然改変が少なく、施工箇所が目立たない工法を検討しました。そこで採用された工法が岩接着工法です。岩接着工法は、開口亀裂で不安定化した浮石や転石を基岩部と接着一体化させ安定を図る工法です。表面にワイヤーロープ等を必要としないため、施工箇所を自然な状態に仕上げることができました。今後も現場に適した工法を積極的に推進していきます。

施工後の状況

全国育樹祭が埼玉県で開催（平成25年11月16日、17日）

第37回全国育樹祭が埼玉県で開催されます。

全国育樹祭は継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、昭和52年から毎年秋に行われています。

埼玉県での森づくり活動や「みどりの再生」の取組みを全国へ発信し、美しく活力ある森林をつくり、みどりを次の世代につないでいきます。

○お手入れ行事　平成25年11月16日（土）

金尾山県有林（寄居町）

昭和34年春に開催された全国植樹祭で昭和天皇・香淳（こうじゅん）皇后両陛下がお手植えされたヒノキを皇族殿下がお手入れされます。

○式典行事　平成25年11月17日（日）

彩の国くまがやドーム（熊谷市）

皇族殿下のおことばや緑化功労者の表彰、アトラクションなどを行います。

○育林交流会　平成25年11月17日（日）

飯能市市民会館（飯能市）

このほか、全国緑の少年団活動発表会（熊谷市）、森林・林業・環境機械展示実演会（熊谷市）などが行われます。

詳しくは、全国育樹祭課のＨＰ
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k35/
を御覧ください。

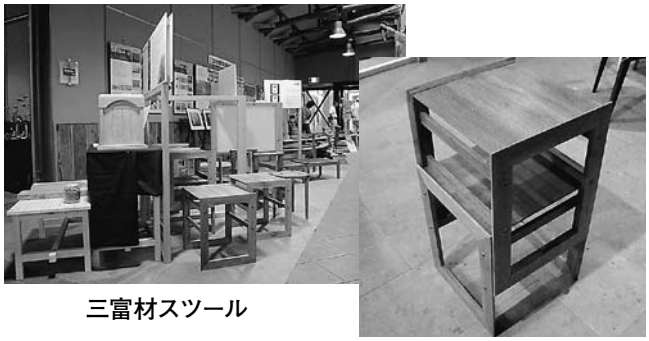
西川材、三富材を利用した新たな家具を開発

協同組合フォレスト西川（飯能市）は、オフィス家具メーカーの㈱岡村製作所、塗料メーカーの㈱大谷塗料と連携し、折りたたみ会議用テーブルを開発しました。アルミ製脚部と特殊塗装で表面強度を高めた「西川材」の天板（スギ、ヒノキ）を組み合わせ機能性・デザイン性の高い製品となっています。

西川材会議用テーブル

三富材の利用促進に取組む「さんとめの木をいかす会」は、これまで家具としては活用されなかった平地林のコナラ材を使ったスツール（積み重ねできる椅子）を開発しました。家具作家の高い技術により斬新なデザインとなっています。

今後も「西川材」「三富材」などの県産木材の用途拡大と普及・PRを進めていきます。



三富材スツール

中学生が三富地域の平地林で体験学習

平成25年１月18日、志木市立第二中学校の１年生160名が三富地域の平地林で校外体験学習を行いました。

三富地域農業振興協議会（会長：齋藤満　事務局：ＪＡいるま野）が農家やボランティアの協力体制を整え、初めて中学生の体験学習が実現しました。

学習の目的は、現地での体験を通じて、三富地域の循環型農業を支えている平地林の機能を理解するとともに、自然、環境、集団行動について学ぶことにあります。校外体験学習に先立ち、三富新田の開拓の歴史、平地林の植生、樹木の役割などに関する授業も事前に行われました。

あいにく当日は４日前に降った残雪が約10cmもあったため、落ち葉掃きを中止し、ボランティアが生徒と一緒に平地林内を巡りながら落ち葉掃きの方法や樹種などを説明しました。

昼食は、生徒全員がたき火と飯ごう炊飯に挑戦し、地元野菜のけんちん汁と焼き芋で三富の味を楽しみました。

生徒は「農家が平地林をこんなに利用しているとは知らなかった。環境を守るためにも平地林は大切。家に帰ったらお母さんに話したい。」と楽しそうに話していました。

また、引率の先生は「近くにこのような学習の場があることを初めて知った。子供たちにとって貴重な体験ができた。是非継続していきたい。」と力強く語っていました。

協議会では、今後とも関係者の協力を得ながら三富農業の理解を深めていくこととしています。

残雪で真っ白な平地林内での体験学習

飯能市の栗原慶子さんが農林水産大臣賞、鶴ヶ島市の岡野とし子さんが農林水産副大臣賞を受賞

平成24年度農山漁村女性・シニア活動表彰で、飯能市の栗原慶子さんが農林水産大臣賞、平成24年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰で、鶴ヶ島市の岡野とし子さんが農林水産副大臣賞を受賞しました。

栗原さんは、県内初の女性林業グループを結成し学習活動や木工品の製作を始めました。平成９年、県の林業女性会議「結木の会」を発足、代表となるとともに、全国林業グループ連絡協議会女性会議を結成、初代会長となりました。全国レベルでの女性林業者の組織化に向け尽力され、こうした活動が全国に波及し各都道府県で女性林業者の会が結成されるなど、男性社会だった林業界での女性参画を牽引しています。

栗原慶子さん

岡野さんは、昭和46年に専業農家に嫁ぎ、昭和63年に鶴ヶ島市初の女性農業者組織「ひまわりの会」を発足、初代会長となりました。平成17年に鶴ヶ島市初の女性農業委員となり、遊休農地解消対策に取り組みました。また、市の男女共同参画推進プランの策定委員に委嘱されるなど、ひまわりの会を通じた女性の地域社会参画に貢献しています。

岡野とし子さん

青年農業者４人が海外派遣研修に参加

埼玉県農林公社主催の農業青年海外派遣研修に管内から日高市の道谷淳史さん、入間市の清水知弥さん、増田卓郎さん、栗原拓也さんが参加しました。４人は７月10日から10日間、オランダ、ドイツ、フランスの農業状況を視察し見識を広げるとともに県内各地の青年農業者との交流を深めました。

オランダのスーパー、アーケット視察

埼玉県産農産物サポート店が新たに105店舗登録

県産農産物をおおむね年間を通じて利用したり、取り扱かっている飲食店、小売店、卸売業者、食品製造業者を埼玉県産農産物サポート店として登録しています。

24年度、管内で新たに105店舗が登録され、計438店舗となりました。登録された店舗や商品は県庁ＨＰhttp://www.pref.saitama.lg.jp/site/support-tenで紹介しています。

水源地域における土地取引の事前届出制度が開始

投機や水資源の確保を目的とした無秩序な森林買収を未然に防ぎ、水源地域の保全を図るため、「埼玉県水源地域保全条例」が平成24年10月１日より施行され、土地の取引にあたり30日前までに届出書を提出していただくことになりました。

対象となる土地は、管内の飯能市、日高市、毛呂山町、越生町の４市･町の中で、指定された地域の山林です。土地の売買だけでなく、土地を貸すことなども対象となります。

届出書は、当センター林業部（飯能市）に提出してください。